

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	北海道財務局長
【提出日】	2023年1月13日
【四半期会計期間】	第36期第2四半期（自 2022年9月1日 至 2022年11月30日）
【会社名】	キャリアバンク株式会社
【英訳名】	CAREER BANK CO.,LTD
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 佐藤 良雄
【本店の所在の場所】	札幌市中央区北五条西五丁目7番地
【電話番号】	011(251)3373(代表)
【事務連絡者氏名】	常務取締役経理財務部長兼経営管理部長 橋本 正太
【最寄りの連絡場所】	札幌市中央区北五条西五丁目7番地
【電話番号】	011(251)3373(代表)
【事務連絡者氏名】	常務取締役経理財務部長兼経営管理部長 橋本 正太
【縦覧に供する場所】	証券会員制法人札幌証券取引所 (札幌市中央区南一条西五丁目14番地の1)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第35期 第2四半期連結 累計期間	第36期 第2四半期連結 累計期間	第35期
会計期間	自2021年 6月1日 至2021年 11月30日	自2022年 6月1日 至2022年 11月30日	自2021年 6月1日 至2022年 5月31日
売上高 (千円)	3,500,355	3,505,447	7,397,745
経常利益 (千円)	102,564	58,110	248,413
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益 (千円)	125,001	97,854	85,895
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	86,848	67,370	179,840
純資産額 (千円)	1,563,350	1,706,037	1,656,342
総資産額 (千円)	3,595,273	3,984,506	3,924,902
1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	125.88	98.54	86.50
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	28.1	27.3	25.0
営業活動によるキャッシュ・フロー (千円)	366,397	862,864	587,476
投資活動によるキャッシュ・フロー (千円)	86,037	43,332	45,720
財務活動によるキャッシュ・フロー (千円)	124,448	149,750	424,800
現金及び現金同等物の四半期末(期末)残高 (千円)	1,481,415	1,450,872	2,193,968

回次	第35期 第2四半期連結 会計期間	第36期 第2四半期連結 会計期間
会計期間	自2021年 9月1日 至2021年 11月30日	自2022年 9月1日 至2022年 11月30日
1株当たり四半期純利益 (円)	66.84	66.94

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 第35期第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。また、第35期及び第36期第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

本項における将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

(1) 経営成績の状況

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の影響からの経済社会活動の正常化の動きが進むなか、ウクライナ情勢の長期化や原材料価格の高騰による物価上昇など、不透明な状況が続きました。

このような状況のもと、当社グループは、新型コロナウイルス感染症拡大の対策を継続実施しつつ、企業と人材を繋ぐ役割と機能を果たし、質の高い人材サービスの提供を通じて、双方が求めるニーズに応えてまいりました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間における当社グループの経営成績は、売上高3,505,447千円（前年同期比0.1%増）、営業利益54,686千円（前年同期比46.4%減）、経常利益58,110千円（前年同期比43.3%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益97,854千円（前年同期比21.7%減）となりました。

セグメントの経営成績は、次のとおりであります。

人材派遣関連事業

人材派遣関連事業においては、前年同期に計上した新型コロナウイルス感染症のワクチン接種に係る売上高が減少したことから、売上高及びセグメント利益が前年同期を下回りました。この結果、売上高1,728,783千円（前年同期比14.1%減）、セグメント利益257,561千円（同24.9%減）となりました。

人材派遣関連事業（関東）（株式会社セールスアウトソーシング）

人材派遣関連事業（関東）においては、新型コロナウイルス感染症の影響によるイベント及び推奨販売等の対面で行う業務の回復が予想より遅れており、売上高及びセグメント利益が前年同期を下回りました。この結果、売上高199,462千円（前年同期比14.3%減）、セグメント損失9,491千円（前年同期はセグメント損失4,335千円）となりました。

人材紹介事業

人材紹介事業においては、人材の流動化による求人ニーズへ迅速に対応したことで、特にIT系人材の成約数が伸びたことにより、売上高及びセグメント利益が前年同期を上回りました。この結果、売上高100,859千円（前年同期比99.3%増）、セグメント利益32,682千円（同750.0%増）となりました。

再就職支援事業

再就職支援事業においては、キャリアチェンジ及び介護人材養成に係る受託事業が増加したことにより、売上高及びセグメント利益が前年同期を上回りました。この結果、売上高651,451千円（前年同期比1.3%増）、セグメント利益85,486千円（同96.0%増）となりました。

BPO事業

BPO事業においては、給与計算処理人数及び新規顧客の導入関連売上が増加したことにより、売上高は前年同期を上回りました。セグメント利益については、オペレーション部門強化に伴う労務費増加及び設備投資に伴う減価償却費増加により前年同期を下回りました。この結果、売上高614,569千円（前年同期比30.4%増）、セグメント損失142,952千円（前年同期はセグメント損失124,727千円）となりました。

日本語学校運営事業

日本語学校運営事業においては、前年同期に起こっていた新型コロナウイルス感染症の影響による入国制限で新規の留学生が入国出来ない状況が解消されたことにより、売上高が前年同期を上回り、セグメント損失が縮小しました。この結果、売上高88,578千円（前年同期比467.3%増）、セグメント損失6,086千円（前年同期はセグメント損失8,767千円）となりました。

その他

その他事業は、ソフトウェア・ハードウェア開発事業が加わったことにより、売上高が前年同期を上回りましたが、中国語学研修事業及びメンタルヘルス事業の業績が縮小したため、セグメント利益が前年同期を下回りました。この結果、売上高121,741千円（前年同期比62.7%増）、セグメント利益3,590千円（前年同期比66.9%減）となりました。

(2) 財政状態の状況

(資産)

流動資産は、前連結会計年度末に比べ4,345千円増加し、3,117,507千円となりました。これは主に売掛金及び契約資産の増加726,884千円と現金及び預金の減少743,095千円との差額等によるものであります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べ55,258千円増加し、866,998千円となりました。

この結果、総資産につきましては、前連結会計年度末に比べ59,603千円増加し、3,984,506千円となりました。

(負債)

流動負債は、前連結会計年度末に比べ29,096千円減少し、1,703,472千円となりました。これは主に未払費用の減少70,988千円、未払消費税等の減少131,726千円及び1年内返済予定の長期借入金の増加149,410千円等によるものであります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べ39,005千円増加し、574,995千円となりました。これは主に長期借入金の増加33,035千円によるものであります。

この結果、負債につきましては、前連結会計年度末に比べ9,908千円増加し、2,278,468千円となりました。

(純資産)

純資産につきましては、前連結会計年度末に比べ49,695千円増加し、1,706,037千円となりました。これは主に親会社株主に帰属する四半期純利益の計上によるものであります。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という）は、売上債権の増加額による支出等が税金等調整前四半期純利益の計上による収入等を上回ったため、期首残高に比べて743,095千円減少し、当第2四半期連結累計期間末には1,450,872千円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果使用した資金は862,864千円（前年同期比135.5%増）となりました。これは主に売上債権の増加額が税金等調整前四半期純利益の計上による収入等を上回ったことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は43,332千円（前年同期比49.6%減）であります。これは主に有形及び無形固定資産の取得による支出によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果得られた資金は149,750千円（前年同期は使用した資金124,448千円）であります。これは主に長期借入れによる収入によるものであります。

(4) 経営方針・経営戦略等

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが定めている経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

(5) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当第2四半期連結累計期間において、新たに発生した優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題について重要な変更はありません。

(6) 研究開発活動

該当事項はありません。

3【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	3,280,000
計	3,280,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (2022年11月30日)	提出日現在発行数(株) (2023年1月13日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	993,000	993,000	札幌証券取引所	単元株式数 100株
計	993,000	993,000	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
2022年9月1日 ~2022年11月30日	-	993,000	-	256,240	-	63,240

(5) 【大株主の状況】

2022年11月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式(自己 株式を除く。)の 総数に対する所有 株式数の割合 (%)
佐藤 良雄	札幌市中央区	386,700	38.94
株式会社エス・ジー・シー	札幌市東区北5条東8丁目1-33	103,900	10.46
万徳 正男	滋賀県草津市	40,500	4.07
株式会社SATO-INVEST MENT	札幌市東区北5条東8丁目1-33	36,800	3.70
斎藤 良正	青森県青森市	30,000	3.02
株式会社TKS	東京都港区東新橋1丁目5-2	24,100	2.42
株式会社北洋銀行	札幌市中央区大通西3丁目7	24,000	2.41
キャリアバンク従業員持株会	札幌市中央区北5条西5丁目7番地	14,300	1.44
土屋 公三	札幌市中央区	12,500	1.25
新谷 隆俊	札幌市北区	11,600	1.16
山崎 俊	東京都豊島区	11,600	1.16
計	-	696,000	70.09

(6) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2022年11月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	-	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 993,000	9,930	-
単元未満株式	-	-	-
発行済株式総数	993,000	-	-
総株主の議決権	-	9,930	-

【自己株式等】

該当事項はありません。

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（2022年9月1日から2022年11月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2022年6月1日から2022年11月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、三優監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】

(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年5月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2022年11月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,193,968	1,450,872
売掛金及び契約資産	742,401	1,469,285
その他	177,214	197,995
貸倒引当金	422	646
流動資産合計	3,113,162	3,117,507
固定資産		
有形固定資産	199,891	192,411
無形固定資産		
のれん	107,181	97,446
その他	232,053	231,424
無形固定資産合計	339,234	328,870
投資その他の資産	272,613	345,717
固定資産合計	811,739	866,998
資産合計	3,924,902	3,984,506
負債の部		
流動負債		
買掛金	82,063	140,313
短期借入金	600,000	600,000
1年内返済予定の長期借入金	35,805	185,216
1年内償還予定の社債	14,000	7,000
未払費用	398,605	327,616
未払法人税等	79,806	94,923
未払消費税等	202,383	70,657
賞与引当金	-	56,126
その他	319,905	221,620
流動負債合計	1,732,569	1,703,472
固定負債		
長期借入金	516,153	549,188
その他	19,837	25,807
固定負債合計	535,990	574,995
負債合計	2,268,559	2,278,468
純資産の部		
株主資本		
資本金	256,240	256,240
資本剰余金	104,184	105,617
利益剰余金	559,368	644,314
株主資本合計	919,793	1,006,172
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	47,377	60,776
為替換算調整勘定	13,882	20,122
その他の包括利益累計額合計	61,260	80,898
非支配株主持分	675,287	618,966
純資産合計	1,656,342	1,706,037
負債純資産合計	3,924,902	3,984,506

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第 2 四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第 2 四半期連結累計期間 (自 2021年 6 月 1 日 至 2021年11月30日)	当第 2 四半期連結累計期間 (自 2022年 6 月 1 日 至 2022年11月30日)
売上高	3,500,355	3,505,447
売上原価	2,828,671	2,786,003
売上総利益	671,684	719,443
販売費及び一般管理費	569,741	664,756
営業利益	101,943	54,686
営業外収益		
受取賃貸料	4,233	4,173
受取配当金	1,338	1,529
その他	2,699	4,599
営業外収益合計	8,271	10,302
営業外費用		
支払利息	3,002	2,622
賃貸費用	4,233	4,173
その他	414	82
営業外費用合計	7,650	6,878
経常利益	102,564	58,110
特別利益		
新型コロナウイルス感染症による助成金収入	1,486	1,681
特別利益合計	1,486	1,681
特別損失		
投資有価証券評価損	3,876	-
特別損失合計	3,876	-
税金等調整前四半期純利益	100,174	59,792
法人税等	20,162	22,281
四半期純利益	80,011	37,510
非支配株主に帰属する四半期純損失 ()	44,989	60,344
親会社株主に帰属する四半期純利益	125,001	97,854

【四半期連結包括利益計算書】
 【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年6月1日 至 2021年11月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年6月1日 至 2022年11月30日)
四半期純利益	80,011	37,510
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	2,386	15,417
為替換算調整勘定	4,450	14,442
その他の包括利益合計	6,837	29,860
四半期包括利益	86,848	67,370
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	128,764	117,492
非支配株主に係る四半期包括利益	41,915	50,121

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位 : 千円)

	前第 2 四半期連結累計期間 (自 2021年 6 月 1 日 至 2021年11月30日)	当第 2 四半期連結累計期間 (自 2022年 6 月 1 日 至 2022年11月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	100,174	59,792
減価償却費	49,258	57,815
のれん償却額	3,205	9,735
賞与引当金の増減額 (は減少)	34,134	56,126
支払利息	3,002	2,622
投資有価証券評価損益 (は益)	3,876	-
売上債権及び契約資産の増減額 (は増加)	569,159	725,941
営業債務の増減額 (は減少)	24,519	58,250
未払金の増減額 (は減少)	48,197	183,729
未払費用の増減額 (は減少)	32,995	71,173
未払消費税等の増減額 (は減少)	33,044	129,021
預り金の増減額 (は減少)	1,489	369
契約負債の増減額 (は減少)	17,556	84,588
その他	45,500	17,206
小計	359,600	797,772
法人税等の支払額	12,779	68,325
法人税等の還付額	7,475	3,804
その他	1,492	570
営業活動によるキャッシュ・フロー	366,397	862,864
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	40,280	13,471
無形固定資産の取得による支出	56,684	36,133
投資有価証券の売却による収入	1,125	-
敷金及び保証金の回収による収入	9,971	8,505
敷金及び保証金の差入による支出	108	16,776
その他	61	1,998
投資活動によるキャッシュ・フロー	86,037	43,332
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入れによる収入	200,000	-
短期借入金の返済による支出	100,000	-
長期借入れによる収入	-	200,000
長期借入金の返済による支出	200,000	17,554
社債の償還による支出	-	7,000
非支配株主からの払込みによる収入	1,238	-
配当金の支払額	12,729	12,547
非支配株主への配当金の支払額	12,958	13,147
財務活動によるキャッシュ・フロー	124,448	149,750
現金及び現金同等物に係る換算差額	3,501	13,351
現金及び現金同等物の増減額 (は減少)	573,383	743,095
現金及び現金同等物の期首残高	2,054,798	2,193,968
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,481,415	1,450,872

【注記事項】

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第 2 四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

ただし、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用する方法によっております。

(追加情報)

前連結会計年度の有価証券報告書の(重要な会計上の見積り)に記載した新型コロナウイルス感染症の影響に関する仮定及び会計上の見積りについて、重要な変更はありません。

(四半期連結損益計算書関係)

販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第 2 四半期連結累計期間 (自 2021年 6 月 1 日 至 2021年11月30日)	当第 2 四半期連結累計期間 (自 2022年 6 月 1 日 至 2022年11月30日)
給与	219,224千円	253,943千円
賞与引当金繰入額	9,497千円	17,478千円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は次のとおりであります。

	前第 2 四半期連結累計期間 (自 2021年 6 月 1 日 至 2021年11月30日)	当第 2 四半期連結累計期間 (自 2022年 6 月 1 日 至 2022年11月30日)
現金及び預金勘定	1,481,415千円	1,450,872千円
現金及び現金同等物	1,481,415	1,450,872

(株主資本等関係)

前第 2 四半期連結累計期間 (自 2021年 6 月 1 日 至 2021年11月30日)

1 . 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1 株当たり 配当金 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2021年 8 月27日 定時株主総会	普通株式	12,909	13	2021年 5 月31日	2021年 8 月30日	利益剰余金

- 2 . 基準日が当第 2 四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第 2 四半期連結会計期間の末日後となるもの
 該当事項はありません。

当第 2 四半期連結累計期間 (自 2022年 6 月 1 日 至 2022年11月30日)

1 . 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1 株当たり 配当金 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2022年 8 月26日 定時株主総会	普通株式	12,909	13	2022年 5 月31日	2022年 8 月29日	利益剰余金

- 2 . 基準日が当第 2 四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第 2 四半期連結会計期間の末日後となるもの
 該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 2021年6月1日 至 2021年11月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント						計
	人材派遣関連事業	人材派遣関連事業(関東)	人材紹介事業	再就職支援事業	BPO事業	日本語学校運営事業	
売上高							
顧客との契約から生じる収益	2,012,205	232,856	50,605	642,924	471,310	15,614	3,425,518
外部顧客への売上高	2,012,205	232,856	50,605	642,924	471,310	15,614	3,425,518
セグメント間の内部売上高又は振替高	13	-	184	-	6,735	452	7,386
計	2,012,219	232,856	50,789	642,924	478,046	16,067	3,432,904
セグメント利益又は損失()	343,108	4,335	3,844	43,619	124,727	8,767	252,742

	その他(注)1	合計	調整額(注)2	四半期連結損益計算書計上額(注)3
売上高				
顧客との契約から生じる収益	74,837	3,500,355	-	3,500,355
外部顧客への売上高	74,837	3,500,355	-	3,500,355
セグメント間の内部売上高又は振替高	-	7,386	(7,386)	-
計	74,837	3,507,742	(7,386)	3,500,355
セグメント利益又は損失()	10,845	263,588	(161,644)	101,943

(注)1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、語学研修事業等を含んでおります。

2. 調整額は次のとおりであります。

(1) セグメント利益の調整額 161,644千円には、各報告セグメントに配分していない全社費用161,644千円が含まれております。

(2) 全社費用は主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益又は損失は四半期連結財務諸表の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第2四半期連結累計期間（自 2022年6月1日 至 2022年11月30日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

（単位：千円）

	報告セグメント						計
	人材派遣関連 事業	人材派遣関連 事業（関東）	人材紹介事業	再就職支援事 業	BPO事業	日本語学校運 営事業	
売上高							
顧客との契約から生じ る収益	1,728,783	199,462	100,859	651,451	614,569	88,578	3,383,705
外部顧客への売上高	1,728,783	199,462	100,859	651,451	614,569	88,578	3,383,705
セグメント間の内部売上 高又は振替高	39	83	17,590	-	5,363	368	23,446
計	1,728,823	199,546	118,450	651,451	619,933	88,947	3,407,151
セグメント利益又は損失 （ ）	257,561	9,491	32,682	85,486	142,952	6,086	217,200

	その他(注) 1	合計	調整額(注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
売上高				
顧客との契約から生じ る収益	121,741	3,505,447	-	3,505,447
外部顧客への売上高	121,741	3,505,447	-	3,505,447
セグメント間の内部売上 高又は振替高	18,163	41,609	(41,609)	-
計	139,905	3,547,057	(41,609)	3,505,447
セグメント利益又は損失 （ ）	3,590	220,790	(166,103)	54,686

（注）1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、語学研修事業及びソフトウェア・ハードウェア開発事業等を含んでおります。

2. 調整額は次のとおりであります。

(1) セグメント利益の調整額 166,103千円には、各報告セグメントに配分していない全社費用 157,909千円及びセグメント間取引 8,194千円が含まれております。

(2) 全社費用は主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益又は損失は四半期連結財務諸表の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

3. 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期連結会計期間より、従来の「ペイロール事業」を「BPO事業」へ名称変更しております。なお、前第2四半期連結累計期間のセグメント情報については、変更後の名称により作成しております。

（収益認識関係）

顧客との契約から生じる収益を分解した情報は、「注記事項（セグメント情報等）」に記載のとおりであります。

（１株当たり情報）

１株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第２四半期連結累計期間 （自 2021年６月１日 至 2021年11月30日）	当第２四半期連結累計期間 （自 2022年６月１日 至 2022年11月30日）
１株当たり四半期純利益金額	125円88銭	98円54銭
（算定上の基礎）		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額（千円）	125,001	97,854
普通株主に帰属しない金額（千円）	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益金額（千円）	125,001	97,854
普通株式の期中平均株式数（株）	993,000	993,000

（注）前第２四半期連結累計期間の潜在株式調整後１株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。また、当第２四半期連結累計期間の潜在株式調整後１株当たり四半期純利益金額については、希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。

（重要な後発事象）

該当事項はありません。

２【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2023年 1月12日

キャリアバンク株式会社

取締役会 御中

三 優 監 査 法 人

札幌事務所

指定社員
業務執行社員

公認会計士 宇野 公之

指定社員
業務執行社員

公認会計士 岡島 信平

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているキャリアバンク株式会社の2022年6月1日から2023年5月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（2022年9月1日から2022年11月30日まで）及び第2四半期連結累計期間（2022年6月1日から2022年11月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、キャリアバンク株式会社及び連結子会社の2022年11月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期連結財務諸表に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において

四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。

- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. X B R L データは四半期レビューの対象には含まれていません。